

集解處處多有、二月種芋子肥大者、生苗葉似荷而長莖青紫色、三邊圓、一邊凹、高尺餘或三五尺采莖乾者俗稱芋柄源順曰、唐韻載音耿、芋莖也、和名以毛加良、一曰以毛之、今未聞稱者也、其花黃色、旁有一長萼護之、如葉之卷而不常有、根如烏頭、一頭兩邊生數子、山中田園沃地生者肥圓最好、又一種有全載入咽者此稱蓋芋、青芋及野生者亦然、味粗不可食、自秋末至冬作魁味尙甘美、有魁大子多者、有子少者、有味美者、有不美者、有蓋者、有青者、有白者、有紫者、有黃者、其狀不一、世人稱芋頭芋子俱愛之美之、就中近世八月十五夜賞月者必以芋子青連莢豆而煮食、九月十三夜賞月者以芋子著薄皮者稱衣被、與生栗煮食正月三朝以芋魁入雜煮中而俱賞之、上下家家爲流例也、芋莖生乾俱作蔬食攝州和州江州及肥之後州等處出乾芋莖色白而太長最脆美也、一種有蓮芋者、芋有數小竊莖亦同、而如蓮莖之有竊無絲味亦俱好、一種有栗芋者、生食甘美不蓋、如生栗及烏芋、煮食亦肉實美、然不似熟栗之甘爾。

〔和漢三才圖會百二柔滑菜〕芋 虛土芝 蹤鷗 家芋 和名以閑都以毛俗云里芋對山芋名之○中粒芋○其莖有紫理子小圓味美唐芋莖帶紫色魁大子少其子足細長魁味美似栗○中青芋○俗云蓋芋惠毛此亦有二種一種其子如常而細長一種如蓋而附生於魁味爲勝

〔成形圖說二十二〕凡芋に早中晚の屬水旱の二種あり、其品數十名にして、大小と圓く長き等の異、又は味の美惡地道の厚薄に因て諸道同じからず○中早芋は七月生靈會の頃に熟て、中手なるは八月に及て取れり、早手は鶴兒芋てふものを上等とす、其芽長きが故に名く、沖繩にて芋の大に相似たり、一種美賀志伎芋あり、俗言野菜芋すひ芋なども呼り、子なく、根より蔓のごと四方へ筋を延して、其端より淡青莖を生ず、植るも其筋を畠に漫撒し、上より踏穰糞堆の類を覆ひ置ば、中夏の頃には既く其莖を引抜つ、糞料に剉用て少も蓋味なし○中赤芋根莖ともに紫色○栗芋○註略○衣被芋皮かぶりたる名なり、又皮○ながらに煮を黒煮と云、○都芋日向わたりにて云り、